

平成15年 3月24日

報道機関 各位

広島大学総務部大学情報室長
西田良一

日本化学会化学教育賞の受賞について

このたび、大学院教育学研究科 田中春彦 教授が標記の賞を受賞しましたのでお知らせいたします。

なお、表彰式及び受賞講演は3月20日、日本化学会第83回春季年会会場（早稲田大学 西早稲田キャンパス）において行われました。

※日本化学会化学教育賞の趣旨等について

日本化学会は今年創立125周年を迎え、会員数3万5千余名からなるマンモス学会で、わが国の化学工学界や学界に大きな影響力を持っています。

* 日本化学会化学教育賞は、今年度(平成14年度)で第27回目であり、11名の委員で構成される化学教育賞等選考委員会による受賞候補者の選考を経て、理事会の承認を得て受賞者が決定されます。

* 日本化学会化学教育賞は、原則として同学会会員であって、国際的または全国的視野において化学教育上特に顕著な業績または功績のあった者に授与されます（表彰規定総則第8条）。

* 受賞者の表彰は、毎年表彰式において行われ、表彰楯が授与されます。

社団法人 日本化学会のホームページ：<http://www.csi.jp/>

【お問い合わせ先】
広島大学大学院教育学研究科
教授 田中 春彦
TEL: (0824) 24-6031
(ダイヤルイン)

[発信枚数: A4版 4枚(本票含む)]

○[受賞候補者選定報告書](#)

化学教育賞

田中春彦氏(広島大学大学院教育学研究科教授・理学博士)

[業績] 教育内容の開発研究による化学教育振興への貢献

(Contribution to the Promotion of Chemical Education through researches into the Development of Science Contents)

田中春彦氏は、昭和43年に広島大学大学院理学研究科化学専攻修士課程を修了後、広島大学教育学部助手に採用され、無機水和物の結晶成長機構の研究と共に化学教育の研究に従事してきた。昭和53年に無機固相反応の速度論的研究に着手して以来幾多の優れた論文を発表し、その分野では国内外で注目される成果を挙げている。同氏は平成8年度より国際熱分析・熱量測定連合会の動力学委員会委員長を務めており、同分野の研究の振興・発展にも貢献している。化学教育分野では、「化学内容学」としての教科専門研究の発展に尽力すると共に、高資質の理科(化学)教員の養成に携わってきた。現在は、広島大学大学院教育学研究科の自然システム教育学講座の教授として、幅広い化学教育の理論的・実践的研究に従事している。以下に、化学教育分野における同氏の業績の一部を紹介する。

1. 化学教育の内容学的研究と理科教員養成への寄与

田中氏は化学教育の真の改善のためには、教科専門としての化学(内容学)的研究が不可欠であるとし、実験・観察に基づいた「健全な物質観」の育成と共に「科学・環境的素養」の涵養のための教育の推進が重要であるという視点に立って研究を精力的に行ってきた。とくに、昭和55年に広島大学大学院学校教育研究科の担当となって以来、氏の専門としてきた溶解・結晶成長や無機固相反応化学を小学校～高等学校の化学教材として開発した。さらに同氏は、教員養成系大学・学部生のための化学教科書が必要であると考え、平成6年に初級テキストとして「環境と人にやさしい化学、培風館」を著した。本テキストは、多くの教員養成学部や文科系学部等で採用され化学教育の普及に寄与している。また、化学実験廃液の処理に関する教材のほか多くの固相反応化学教材を開発し、これらの教材を取り入れた化学実験テキスト「化学の実験－化学を基礎から理解するために－、培風館」を平成7年に著した。同書は、教員養成系大学・学部等で広く活用され高い評価を受けている。さらに、鉄、銅、マンガンなどの重金属の関与する化学反応教材の開発研究を精力的に行い、日本化学会やアメリカ化学会の化学教育誌等に多くの優れた論文を発表している。こうした化学教育を通して優れた初等・中等理科教員の養成に尽力している。

2. 化学教育分野における国際協力活動

同氏は、平成2年より国際協力事業団(JICA)と広島大学が発展途上国の中等理科教員を対象として行っている「科学教育実技集団研修コース」の研修講師として化学の講義と実験を担当した。とくに、平成5年度からの7年間、同研修コースの責任者を務め研修コースの企画・実施・評価などにおいて中心的な役割を果たした。平成6年度には同研修用の英文テキストを編纂するとともに、化学実験と環境教育に関する章の執筆を担当した。本テキストは以後の研修に使用されているほか、発展途上国の多くの理科教育関係者に配付され教員研修等で広く活用されている。平成10年には関係諸国の文部省等を訪問して同研修コースのニーズを調査するとともに、科学教育セミナーを開催して科学教育の普及に務めた。一方、平成8年度から3年間、発展

途上国を対象としたユネスコの教師教育プログラムに化学教育の専門家として参画し、化学教育的観点から総合的な環境教育へと発展可能な教材を開発した。平成9年に広島で開催された第7回アジア化学会議では、「Innovation in Environmental Education in the Asia-Pacific Region」と題して講演し、環境教育における化学教育の重要性を力説した。氏のこれらの成果は、これまでに発表された多くの優れた論文や総説のほか、「化学に関する国際会議(カルカタ、平成11年)」での講演「Environmental Chemistry Education for the 21st Century」をはじめ、化学教育関連の国際会議等における招待講演として結実している。また、平成12年にコペンハーゲンで開催された国際熱分析・熱量測定連合会主催のワークショップ「The Theory and Practice of Kinetics of Solid-state Reactions」の実行委員長を務めて盛会に導き、固体反応速度論の発展に寄与した。

3. 学界・社会における化学教育の啓蒙・普及活動

同氏は化学教育関連に諸行事の企画・運営にも精力的に取り組んでいる。とくに、平成8年には日本化学会中国四国支部化学教育委員会委員長として中国四国地区の高校生に対する出張講義をスタートさせるなど、高校生のための化学教育事業の充実・発展に尽力した。また、広島県のほか近隣の県立教育センター等の理科研修会の講師を務め現職教員の指導も積極的に行っている。さらに、日本熱測定学会主催の講習会の講師を長年務め、大学や企業の研究者を対象として固体化学反応速度論の講義を行い好評を博した。一方、昭和57年から実施された高等学校「理科I」のほか「化学I」、「化学」、「化学IB」、「化学II」など多数の教科書の執筆に参画し、生徒にとって興味・関心のもてる化学教材の導入に努力した。また、教師用指導書を多数執筆し高等学校の化学教育の振興にも尽力した。

以上のように、田中春彦氏は長年にわたり大学学部・大学院において高資質の化学教師の養成に携わると共に、化学教育内容を体系的に開発し、その理論的・実践的研究において著しい成果を挙げた。さらに、国際教育協力を含む化学教育の振興に対する貢献は誠に顕著であり高く評価される。よって、同氏の業績は日本化学会化学教育賞に値するものと認められた。